

グループワーク

今後の講座に向けて

日時：平成26年7月27日（日） 10:00～12:00

講師：高野雅夫、田中隆文（あいち海上の森大学コーディネーター）

概況



「今後の講座に向けて」

あいち海上の森大学コーディネーター 田中隆文先生、高野雅夫先生

田中隆文先生より、

「私たちが考える森林再生」のグループワークにあたり、城山トラストコートの人工植栽の森、自然豊かな熊野古道の森の2ヶ所の写真が紹介され、自分がイメージする森林再生について自由発想でグループディスカッションの実施を促された。

5班に分かれ、約1時間グループディスカッションを行い、各班の発表が行われました。

1班は『生命(いのち)あふれる森へ』をキーワードに

- ◎人の入っていない森を守ること。
- ◎森の中での生活を守る(里山を守る)こと。
- ◎心の再生(癒し)のため遺産(森)を守ること。

森林を守るためには、お金をかけた開発・整備が必要では？

2班は『環境教育』をキーワードに

- ◎教育する人(リーダー)・教育する場所・学ぶための安全な環境が必要。
- ◎身近なところから森林環境意識の向上が必要。(団地等での木札の利用)
- ◎幼児からシニアまでの森の楽校による環境教育が必要。

環境教育のためには、行政・研究者・知識人等の支援が必要不可欠。

3班は『人と動物が共生する森・里山』をキーワードに

※サブキーワード：我慢と寛容を楽しみに!!

◎人間と動物(獣)との住み分けが必要。

◎生産者(林業・農業)、動物の立場に立った場合、共生・共存できるのか？

4班は『自然環境から里山を考える』をキーワードに、

◎人間が一番と言う考え方で良いのか？

◎自然環境を見る眼を持つ人材育成が必要。

◎森から人が遠ざかったらどうなる？

そもそも自然の環境とは？

5班は『調和のとれた森林再生』をキーワードに

◎人類誕生から破壊→再生→破壊の繰り返しではないのか？

◎本当の自然林ならどうするのか？手を入れるのか？入れないのか？

★講師からの講評

田中隆文先生

枝の議論・幹の議論や幼児からシニアまで環境教育が必要とか、人からの視点ではなく自然環境からの視点での発表など色々な切口が新鮮でしたとの講評がありました。併せて、今後半年間この新鮮さを守って受講して下さいとコメントがありました。

高野雅夫先生

多彩なキーワード(テーマ)の発表が多かった。腑に落ちない意見も多々あったと思いますが、それこそが、あいち海上の森大学の意義との講評がありました。併せて、世界観のある視点で各講座に参加して下さいとコメントがありました。